

第4章 役割・機能の最適化と連携の強化について

1. 当院の果たすべき役割

地域医療構想においては、地域の実情や患者のニーズに応じた医療資源の配置を促し、医療から介護まで切れ目なく提供される体制を確保することを目的として、医療圏域ごとの病床数や機能分化・連携推進等について定められております。

地域医療構想の中で、当院は「急性期機能の充実」「圏域内自治体病院等への支援」「在宅医療の提供」の役割を担っておりますが、そのほか地域の中核となる公立病院として、救急医療、小児医療、感染症医療、災害医療等を担っております。

今後については、人口の推移や医療需要の変化から鑑みて、これまでの役割・機能の見直しや増強が必要となります。

このことから、当院はより高度かつ専門的な医療を担うことが必要と考えております。具体的には、これまでの役割を行いつつ、HCU（高度治療室）を開棟するなど、総合的かつ専門的な急性期医療の提供を行えるよう取り組みます。

なお、地域医療構想における推計年である令和7年及び本プランの最終年度である令和9年度における当院の医療機能ごとの病床数は、下表のとおりとします。

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟	合計	備考
令和5年度	87	182			46	315	
令和7年度	87	182			46	315	
令和9年度	87	182			46	315	

2. 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

高齢化が進展し在宅医療や介護の需要が高まる中、要介護者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築に寄与します。

具体的には、

- かかりつけ医など地域の病院の後方支援病院として、救急患者の受入れ、急性期患者の紹介・逆紹介の実施及び当院医療機器の共同利用
- 地域の病院や介護施設等との定期的な会議の開催や、地域の医療従事者に対する研修の実施

- 看護師や社会福祉士などの連携による、退院後を含めた退院計画の立案
 - 附属とわだ診療所による、在宅や介護施設の患者に対する訪問診療
 - 訪問診療を行っている地域の病院に対する支援・連携
 - 「上十三メディカルネット」の構築による医療・介護施設間の診療情報共有化の推進
- を取り組みます。

3. 医療機能の最適化と連携強化

今後の医療需要の変化や限られた医療資源の活用の観点から、地域全体で持続可能な医療提供体制を確保するため、単なる病院間連携に留まらず、上十三地域全体で病床機能毎に役割を分担していくことが必要となります。

その中で、当院は地域の中核病院として、先に記載したHCUを開棟するなど、より急性期機能に特化した医療を提供するよう取り組みます。その一方、附属とわだ診療所が行う訪問診療の充実により、回復期・慢性期医療の提供に寄与します。

また、当院が急性期機能に特化するためには、回復期機能・慢性期機能を担う病院との連携が不可欠であり、当院が承認を受けている地域医療支援病院として、先に記載した地域包括ケアシステム構築の取り組みを実施することで、上十三地域での連携体制による医療完結を目指します。

その他、病院間の機能分化の推進及び医療資源の集約化を図るため、当院は三沢市立三沢病院及び公立七戸病院と地域医療連携推進法人「上十三まるとネット」を構成しており、同法人において、

- 地域医療構想に基づいた病院機能の役割分担の推進
- 薬品の地域フォーミュラリによる治療の質の担保及び一貫性のある薬品の利用
- 医薬品、診療材料の共同購入等による経営の効率化
- 高額医療機器の相互利用・適正配置による重複投資の抑制と重複検査の回避
- 災害時における病院間の連携協力の促進
- 地域におけるがん対策の推進（トモセラピー・PET-CTの診療連携等）
- 職員の人事交流及び資質向上に関する共同研修の実施
- 介護事業及び地域包括ケアの推進（協力体制の構築による在宅医療の連携強化）の取り組みを進めております。